

令和元年度第1回兵庫県スポーツ推進審議会 議事録

1 期日・場所 令和元年10月17日(木) 10:00~12:00
兵庫県民会館 「1202会議室」
〒650-0011 神戸市中央区下山手通4丁目16-3

2 出席者
(委員11名)

山口委員	長ヶ原委員	平野委員	倉委員
吉矢委員	小林委員	増田委員	廣瀬委員
村崎委員	榎並委員	石角委員	

欠席：鶴木委員 尾山委員 恒木委員 陳委員

(幹事10名)

○一幡幹事	竹谷幹事	藤原幹事	大久保幹事
○吉田幹事	○村田幹事	○小俵幹事	○西田利幹事
山根幹事	長島幹事		

欠席：成田幹事 斉藤幹事

北中スポーツ振興課参事(陪席)
榊スポーツ振興課参事(陪席)
三浦兵庫県体育協会事務局長(陪席) (○印は代理出席)

(教育委員会)

西上教育長

(事務局)

漁副課長	岡本主任指導主事兼主幹
大森主任指導主事	本多主任事務職員
西本指導主事	

3 開会あいさつ 西上教育長

4 委員・幹事紹介

5 署名委員の指名 署名委員は、小林委員、増田委員に決定

6 前回議事録の報告

平成30年度第3回兵庫県スポーツ推進審議会の審議事項(「2019年度スポーツ振興団体に交付する補助金」について)、及び報告事項(「兵庫県スポーツ推進計画の改定」について、2019年度の事業概要について)の議事録について事務局より説明し、承認を受けた。

7 報 告 事 項

令和元年の事業概要について

- ① スポーツ振興課に関する事業概要について、スポーツ振興課長が報告した。
- ② WMG021 関西に関する事業概要について、スポーツ振興課 榊参事が報告した。
- ③ 神戸マラソンに関する事業概要について、スポーツ振興課 北中参事が報告した。
- ④ 体育保健課に関する事業概要について、体育保健課長が報告した。
- ⑤ ユニバーサル推進課に関する事業概要について、ユニバーサル推進課長が報告した。

8 審 議 事 項

「地域スポーツの今後の活性化」について

事務局より、「スポーツクラブ 21 ひょうご」について総会員数や年齢構成、クラブの課題等を簡単に説明。全県のクラブを訪問し、約半数の聞き取り調査を行った結果、都市部と郡部で活動状況に大きな差が生じていることを報告した。その後、これからの地域スポーツの活性化などについて、委員のご意見をいただいた。

■ 委員の主な意見及び事務局の説明

報告事項 令和元年度の事業概要について

<WMG021 関西について>

【石角委員】

- ワールドマスターズゲームズ（以下WMG）は、人によってはスポーツではなくゲームズという言葉で、ゲームの大会と思われる方がいる。テレビ等で具体的な紹介があってもいい。

【WMG兵庫県実行委員会事務局】

- テレビ等の活用は、組織委員会でも考えており、メディアパートして関西のキー局全てに参画してもらっている。有名なアナウンサーに大会に参加いただく形で、アナバサダーを任命し、アナバサダーが持っている情報番組でも実際に紹介している。ラジオ、テレビ、新聞も含めて、より丁寧に広報していきたい。

【長ヶ原委員】

- 昨年 11 月に関西広域連合から調査依頼を受けて、関西圏で 1 万件の調査をして、都道府県と比較ができるようにした。その時点の推計で、兵庫県で知ってて参加したいと思われる方が 8, 0 0 0 人。ボランティアをしたい方が約 1 万 2, 0 0 0 人いらっしゃって、他の県より高かった。
- パンフレットやポスターの影響もあるが、関西マスターズフェスティバルに参加している方が、する、支えるでかなり興味を持ったということで、かなり威力があったのではないかと。母数から考えると、かなり伸びている。続けて事業展開していただきたい。

<中学校部活動指導員配置事業>

【石角委員】

- 平成 3 0 年度から適切な練習時間や休養日の設定があり、週 2 回という話を聞いているが、その曜日は学校が決めるのか、それとも県が決めるのか。

【体育保健課】

- 学校が決定する。学校で部活毎に休みを決めている。

【石角委員】

- 土日に、講習会に著名な選手が来ても受けられない。規定で決められていても、融通はきくのか。

【体育保健課】

- 大会に向けて練習をしているときには、休めない期間、時期もある。土日試合があつて、1日休まないといけないということもできないので、そういう場合は練習が認められている。終わった後に休養を入れて、全体として休むという、そういう柔軟な対応はできる。

【村崎委員】

- 明石市の市立中学校では、ほぼ各部活動、守っている。平日は、本校は水曜日、ここに働き方改革と両輪で、職員も早く帰れるように、部活動のない状況なので、終業後1時間以内には帰るようには指導している。土曜日、日曜日はどちらか休みで、これもほぼ100%守っている。大会などでは、明石市は変更届で、教育委員会に届を出せば変更ができる。

【廣瀬委員】

- 高校は、中学校とは違う現状があり、頑張ってる生徒の活動を支援したいという先生も多くいる。ただし、ガイドラインが出て、生徒のけがの防止、長期的な生徒への弊害が理解されつつあるので、平日に1日または土日1日、休みをとろうと、努力している。
- 私立学校はどうなのか、ちゃんと守っているのか。勝ちたいという大原則があるので、高体連の会議等でも言っているが、一生懸命していたら、勝たせてやりたいという思いがあるので、私立学校も同じように取り組んでほしいと言われる競技団体もある。ただ、徐々に浸透してきていると感じている。

審議事項 「地域スポーツの今後の活性化」について

【山口委員】

- スポーツクラブ21ひょうごへの、新体力テストの測定機器等を配付するという報告があつた。それをどこに置くか、どういうふうに活用するか、そういう議論があつたが、そのあたりについての情報を教えてほしい。

【スポーツ振興課】

- 今年度の予算で1クラブ当たり100万円、815クラブ合計で8億1,500万円、予算を確保している。現在、全てのクラブに希望を聞き、体力測定に慣れるグッズは必須項目として、こちらで決定し、50万円はフリーで、815通りの希望を募り、上限100万円として、ほぼ各クラブ、100万円でおさまる仕分けができた。
- 予算は815クラブ用意していたが、およそ15クラブの必要ないというクラブもある。買って管理する体制がとれないとのことである。これから県で一括して注文して発注するので、今年度内の配付となる。

【石角委員】

- スポーツクラブを見て回り、都市部と過疎部では差がある言っていたが、実際、具体的にはどういう感じか。都市部のほうが活発的なのか、それとも過疎部のほうが頑張っているのか。

【スポーツ振興課】

- 都市部の方が活発に行われているところが多い。過疎部については、単純に子供がいないということだったり、運営するスタッフが活動できる状況ではないといった、根本的に運営が難しいという現状が見られた。

【平野委員】

- 1つのアイデアとしては、大学との連携。大学はスポーツ指導者の養成もしており、研究もしているので、体力測定の実具があれば、データをとらないと、やる気も出てこない。
- 地域ごとの特色ある取り組みをする仕組みとして、山口会長がおっしゃった、法人としての組織とした後、スタッフについて大学との連携を考えていくことと、研究も入れていく。大学生、大学院生は統計的に、「伸びた。これだけ肥満がなくなった。」という目に見えるものがあると動きやすい。スタッフは大学の力を借りていくこと、ボランティアもそうだし、教員養成系もある。
- 地方が、栄養状態と運動の状態が都会より落ちてきていると、報告を受けている。働き方改革で早く家に帰るのはいいが、夜食が非常にふえている。夕食は6時ぐらいに終わっているが、おやつを夜中に家族で食べるということ、ここ二、三年、報告を受けている。あいた時間にスポーツクラブで過ごすのか、休日を過ごすのか、今がチャンスでもある気がする。欧米のような…スポーツクラブで、0歳から100歳までが運動するのは、地域のほうが仕掛けとしてはやりやすいと感じている。

【山口委員】

- 昨年、大学と協定が結ばれている。兵庫体育・スポーツ科学学会という県内の研究、大学に勤める、あるいは研究所に勤めている人の学会とスポーツクラブ21全県連絡協議会。その後、何か動いたと聞いておらず、課題だと思っている。何か動いているか。

【スポーツ振興課】

- 協定は結んでいるが、スポーツクラブからの提案という意味では、学会に待ってもらっている状況だ。こちらからどういうアプローチをして、どういった支援をしてもらおうか、詰めていかなければならないというのが、今後の課題だと思っている。例えば大学の学生に指導者として地域スポーツクラブの練習会場に来てもらうとか、具体の案として提示できるように進めたい。

【小林委員】

- 競技団体もそうだが、やはりスポーツをするためのモチベーションが子供には一番必要だ。人数が少ないと、やる気もなくなってしまふ。それはスポーツを楽しむところでもあるし、本当に世界を目指す選手もそうだ。練習パートナーは本当に必要で、たくさんの方がいる中で競い合う、自分の技量を伸ばしていくのが必要だ。特色を持ち、人を集めて、その中でスポーツをする、競技力を高めることを目指してほしい。

【吉矢委員】

- ワールドマスターズも含めた大会についての医学面からのサポートに、医師会の力が大きいと思う。それぞれの医師会に、スポーツ担当の役員がいる。地域によって差はあると思うが、かかわりを深めていくのが、先々のこと考えても大事だ。

【倉委員】

- 郡部と都市部が同じようにいくのは非常に難しく、物理的に無理な部分が起こっており意識の違いがある。スポーツを実施するのにも、人数が集まらず、どんどん衰退しているのが現状だ。少子化で、子どものスポーツ活動も減っている。
- クラブの特色ある取組にも示されている「託児つきスポーツ教室等の開催」や、お母さんと一緒にできるような活動をすることで、子どもたちが動くことの楽しみや、お母さんと一緒にすることの喜びや楽しみを味わうと共に、お母さんが地域につながっていることを感じる必要があるのではないか。

【榎並委員】

- スポーツクラブ 21 ひょうごで、地域の方は頑張っているが、子供が集まらない。子供が集まらない種目が減っていく。そうすると小学校から中学校に上がって、やりたいスポーツができない。また中学校も子供が減っているので、やりたい部活動がないという現実がある。
- うちの地域では、野球を、小学校以下の子供たちを集めて、地域の方が活性化しようとしている。もともと藍地区は野球が盛んで、野球とサッカーという地域だったが、どちらも人数が集まらない中学校の現状がある中で、小さい内からいろんなスポーツにかかわっていくことも、地域の方が取り組んでいるので、一緒に応援したいと思っている。
- 小学校や中学校でも、社会体育に行く。部活がないから社会体育で、サッカーをしに行くとか、そういう子たちもふえている。自分たちの地域でできる条件ができたらいと感じている。

【増田委員】

- 障害者スポーツの地域振興は、推進員の方たちが、いろいろとチャレンジしても難しいと感じる。県下には 1,200 人近い障害者スポーツ指導員がいて、それを 9 地区に分けて、地域で掘り起こしをしている。
- 明石市教育委員会は、今年、小学校全校にボッチャを配布した。来年度は全中学校に配る。そういうアクションがうまく起きている。
- 体育保健課でオリンピック、パラリンピアンへの依頼というアクションが起きている。加古川だけでも今年は 30 校の相談依頼を受けていて、30 小学校でパラリンピアンではないが、地域にいる障害者の方が活動する学校との接点をつくっている。県下だけで 100 校以上、こういう事業に取り組んでいる。

9 閉会あいさつ 長島スポーツ振興課長

10 閉 会

【署名委員】

氏名 _____ 印 _____ 氏名 _____ 印 _____